



2012年4月17日。成田空港と関西空港から出展作家7名を含めた総勢80名が、4月20日に開催されるヨーロッパ巡回展「Art Brut from Japan」展のオープニングセレモニーに参加すべく、オランダ アムステルダム(Amsterdam)の地へ飛びたちました。12時間に及ぶ飛行機での旅は、機内食を堪能し、会話が弾み、これから待ち受ける記念すべき出来事を楽しみに胸を躍らせている様子でした。

ツアー期間は5泊7日。セレモニーの前日には日本とオランダの共同主催による夕食会が開かれ、現地のスタッフとの交流も楽しみました。そしてセレモニー当日、それぞれの方が思い思いのおしゃれをし、今回出展される作家の皆さんのお祝いに、オープニングセレモニー会場へと出向きました。

このニューズレターでは、今後ヨーロッパ巡回展開催の様子を、参加者のコメントなどを交え、現地の様子を出来るだけリアルにお伝えしていきます。また、今後も展覧会の様子を国内で広く知っていただけるように、ヨーロッパ巡回展の開催期間中に開催地の様子やヨーロッパ内での反響なども含めて定期的に発行していきます。

< 展覧会の概要 >

2008-2009年にアール・ブリュット・コレクション(スイス ローザンヌ)で開催された「Japon」展、2010-2011年にアル・サン・ピエール美術館(フランス パリ)で開催された「アール・ブリュット ジャポネ」展がきっかけとなり、近年、国内外で日本のアール・ブリュット作品に大変高い関心が寄せられるようになりました。

このような日本の作品への関心の高まりから、この度、オランダ ドルハウス美術館を始め、ヨーロッパ諸国を巡回する展覧会『Art Brut from Japan/アール・ブリュット・フロム・ジャパン (Outsider Art from Japan/アウトサイダー・アート・フロム・ジャパン)』展が開催される運びとなりました。

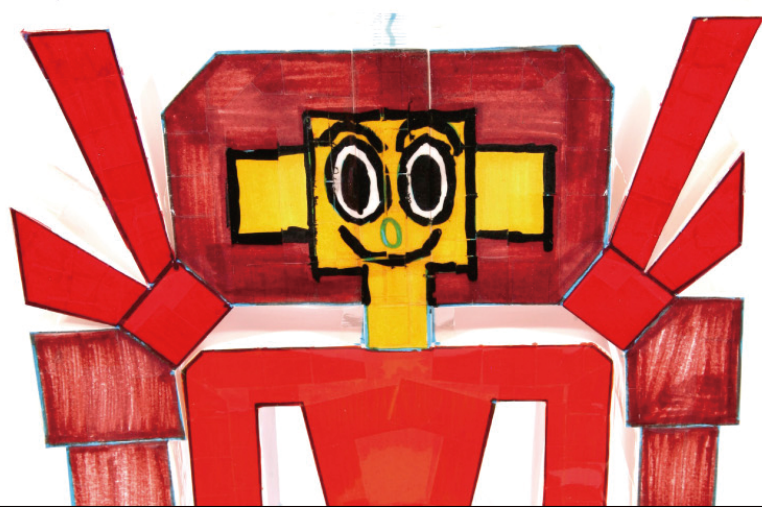
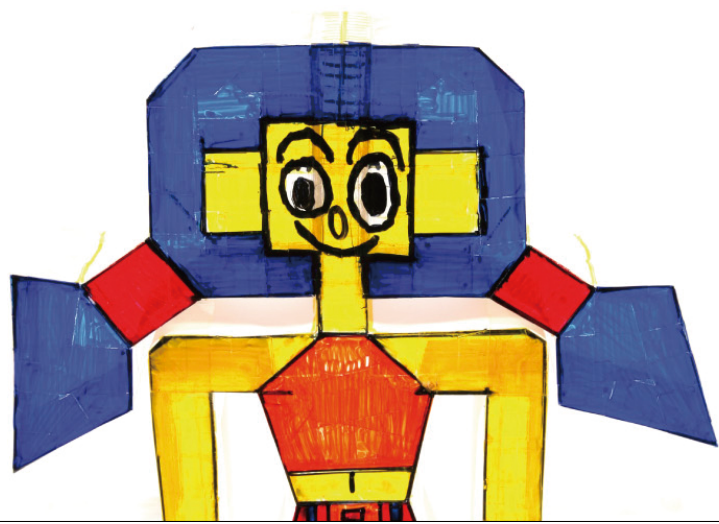
今展覧会では、総勢46名の日本のアール・ブリュット作家が生んだ、約850点の作品がヨーロッパの各地を巡ります。

この巡回展の開催は、日本のアール・ブリュット作品の更なる魅力を、ヨーロッパ諸国の人々に伝えられる絶好の機会となります。また日本国内において新しい芸術文化財産として根付く大きな息吹となることと願っております。

< 展覧会名について >

今展覧会は、各国において、以下の名称で表記されます。

日本「Art Brut from Japan」
英語「Outsider Art from Japan」
オランダ「Hidden Beauty from Japan」





オープニングでのハンス・ロイヤン館長



タキシード姿のハンス・ロイヤン (HANS LOOLIEN) 館長に紹介され、社会福祉法人愛成会 井上庸一理事長によるあいさつから幕を開けたオープニングセレモニー。歴史的背景に基づく日蘭の友好関係のみならず、世界的にも、日本国内においてもあまり報道されていない、震災、原発事故後のオランダ政府ならびにオランダ国民の心温まる対応、数々の支援に対して謝辞が述べられた。紋付き袴姿に、日本人としての感謝の気持ちと、誇りを表現された井上理事長、今回の欧州展がオランダの地を皮切りとしてスタートする意義が、セレモニー会場に浸透していく。

日本から参加した作家のみなさん、ご家族、そして、それぞれの施設からの参加メンバー、スタッフの見守る中、館長、井上理事長をはじめ、ハールレム市長、アムステルダム市長によるテープカットが行われ、展覧会の幕が上がった。

オランダ内外の美術関係者が多く訪れる中、地元メディア関係者に、各々の作品の前で撮影を求められる作家のみなさん、オリジナルのネームカードを緊張の面持ちで、どこか誇らしげに手渡し、ファインダーに収まる。彼らの「立つ瀬」が、さらなる拡がりをみせつつ、世界各地に根付き続けていく。

水流通彦 (社会福祉法人 ゆうかり)

館長へのインタビュー

今展覧会開催のきっかけは何ですか。

“2010年にパリを訪れ、その時に見た日本のアール・ブリュット作品に感銘を受けました。パリの展覧会を機に日本のアール・ブリュットについて、情報収集を始めました。”

オープニングを迎えて、今の気持ちをお答えください。

“私個人にとっても、また作者の皆様にとっても、これらの日本のアール・ブリュット作品たちを世界に発信する絶好の機会です。そして彼らの作品は世界へと語りかけるのです。”

観覧者の反応はいかがですか。

“大変喜んでますよ！まず好奇心が刺激され、作品との繋がりを感じています。観覧に訪れた誰もが熱心に作品と関わっていると云えます。”

今展覧会のコンセプトを教えてください。

また、観覧者にこの展覧会を通して伝えたいことは何ですか。

“やはりこの芸術に対する感じ方について考えてほしいですね。作者に障害があるから作品の見え方が違うのか、いや違う、私たちはこの芸術を通して障害の有る無しに関わらず人が表現する営みに出会い、その自由な想像力に驚かされるのだ。”

ロイヤン館長から見た日本の作品の魅力を教えてください。

“個人的には、これらの作品は日本の感覚の芸術の手腕に重点が置かれているように見受けられます。昔の大芸術家たちが失敗に失敗を重ねる事により追求して行った「完璧」のような精神があると思います。これらの作品は人に見せるためではなく、いかに作家の中の完璧に近い形にするかを基に、造りあげられている様に感じます。”

作品の選定で日本に來日した時の感想をお聞かせください。

“施設のスタッフが利用者である作家の方々の作品制作に対して熱心にサポートされていたのが、印象的でした。また、日本の社会でこの芸術分野が知れ渡ることによって作家の実情や生き方を受け入れられる社会の実現が必要だと思います。彼らはたくいまれな存在なのだから。”

出展作家の皆さんにメッセージをお願いします。

“「自分たちは違う。(彼らは違う。)」という隔たりが社会や作家の間で無くなる事を願います。統括性を勝ち取るのが夢です。”

来場者コメント



とても特別な展覧会で、作者の皆様が「世界」が作品に現れているから。

コミュニケーション(広報)コンサルタント

力、感情共にこの作品たちに圧倒されました。多くのいわゆる「アート」作品では、その作品の持つ意味や伝えようとしている感情・心が中々伝わってこないことが多いです。こちら側が見えさなくてはいけない事がしばしば。ですが、今回の展覧会の作品は即座に観覧者の心に触れます。アートのメッセージ性と力を感じます。素晴らしい作品ばかりでした。

与えてくれる物が多い、力強い、とても多様性に満ちた展覧会です。多くの素晴らしい芸術作品は様々な画材を使用し描かれ、展示されています。作者の皆様が「アウトサイダー」であるからだけではなく、それを越えたオリ



ジナリティーが宿る作品ばかりです。彼らを単なる「アウトサイダー」とは呼べません、皆様素晴らしい芸術家です。この展覧会を企画していただき、ありがとうございます。

L LOVE HOTEL TOKYO
アートディレクター
(現代アートキュレーター)

ドルハウス 美術館 HET DOLHUYLS

オランダ アムステルダムから車で30分程に位置する約600年前に建てられた精神病院を改修した国立の精神医学美術館である。アール・ブリュットを始めとするさまざまな企画展を行い、「どうして人は表現するのか?」という人間に共通する、表現に関する展覧会を行っている。また精神科治療の歴史に関する常設展示の他、小中学生に向けた脳機能や障害などの理解・啓蒙を行う教育施設を併設する。



アートは様々な隔たりを自由に行き来出来るものである事を証明する作品ばかりです。人間の精神の「わびさび」への美しいオマージュであると思いました。感情の表現方法が多様であり、とても深く、時には不穏なその世界の見せ方に大きな感動を受けました。とても有意義な時間でした。

《外科》高血専門医



たくいまれな混乱を味わう。と同時に古き親しんだ「何か」に魅了される。必ず見るべきです！1回だけではなく2回！目、精神ともに明らかにされるものを感じます。

実業家

》》オランダで 過ごした7日間

飛行機が段々高度を下げて、眼下に広がったオランダの地上は、一面緑の田んぼの風景だ
 と思いました。私が住む長野市の隣、千曲市の嬭畑(おぼすて)という小高い場所から、眺め
 る景色に似ていました。到着して、上空で田んぼだと思ったのは、牧草地でした。生まれ
 ばかりの子羊が、親羊と一緒に放牧されていて、アムステルダムの郊外はのどかな風景で
 した。ハーレム市のドルハウス美術館の周辺も、緑と水に囲まれた穏やかな場所でした。
 郊外に対してアムステルダムの中心部はとても賑やかでした。ホテルのすぐ近くでは、沢
 山の種類の花や種、球根が売られている花市が並び、滞在中に花市の通りを散策しました。
 街の中にはソフトドラッグの店や、春を売る女性が窓辺に立っている店がごく普通に存在

して、日本との文化の違いに驚きました。
 ドルハウス美術館のオープニング式典へ、皆でおしゃれをして参加しました。小
 林瑞恵さんの着物姿が綺麗でした。入り口で、館長さんが全員と握手をして下
 さいました。展示された絵の前で、話しかけてくれた方が居ました。中野さんが
 通訳して下さいました。
 旅行の間、参加者の皆さん、添乗員さん、色んな立場の人とお話したり写真をご一
 緒したり出来ました。また、不安感で具合が悪い時に、心配をかけてしまいました
 が、見守ってもらえて、とてもありがたかったです。楽しい7日間でした。 郵 万里絵



▲愛川 正高/Masataka AIKAWA



▲肥前 昌弘/Masashiro AMASAH



▲南宮 清明/Kiyoko AMEMIYA



▲戸次 公明/Komei BEKKI



▲藤野 公一/Koichi FUJINO



▲萩野 トヨ/Toyo HAGINO



▲蒲生 卓也/Takuya GAMO



▲戸家 貴規/Takanori HERAI



▲比嘉 野歩浩/Nobuji HIGA



▼池田 真悟/Shingo IKEDA



▲石野 敬祐/Keisuke ISHINO



▲石野 光輝/Mitueteru ISHINO



▼伊藤 峰尾/Mineo ITO



▲藤部 翔太/Shota KATSUBE



▲河合 由美子/Yumiko KAWAI



▼木村 茜/Akane KIMURA



▲木伏 大助/Daisuke KIBUSHI



▲国府田 良子/Ryoko KODA



▲古久保 善清/Shoichi KOGA



▼古久保 善清/Norimitsu KOKUBO



▲小松 博之/Hiroyuki KOMATSU



▲河野 咲子/Sakiko KONO



▲久保田 洋子/Yoko KUBOTA



▲宮室 一郎/Koichiro MIYA



▲M.K.



▲森田 聡士/Satoshi MORITA



▲村田 清司/Seiji MURATA



▲西川 智之/Satoshi NISHIKAWA



▲西本 敬敏/Masatoshi NISHIMOTO



▲新田 隆竹/Takanari NITTA



▲小橋 正雄/Masao OBATA



▲大江 正幸/Masaaki OE



▲大辻 良介/Ryoosuke OTSUJI



▲山田 雪子/Yukiko YAMADA



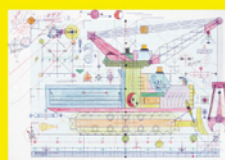
▲山西 敏子/Toshiko YAMANISHI



▲田中 乃穂子/Noriko TANAKA



▲上西 隆夫/Takao UENISHI



▲山崎 健一/Kenichi YAMAZAKI



▲吉川 秀昭/Hideaki YOSHIKAWA

》》アール ブリュット とは

(仏: Art Brut /
加工されていない
生(き)の芸術)

正規の美術教育とは無縁の文脈によって、作者独自の
 方法と発想により制作された芸術作品を指す。フランス人画家ジャン・デュビュッフェによって提唱
 された言葉である。
 障害者のアートのみならず、霊能力者や一般の
 市井の人々など、さまざまな作家がいる。
 アール・ブリュットという芸術分野は、「人が表現す
 ることの可能性」や「人の果てしない創造の力」をま
 ざまざと体感させてくれる。また「生きる」とは何か
 「アートとは何か」という私たちの見方を揺さぶり、
 問いかけてくる。欧米諸国では数多くの作品が収集
 保存され、研究が進んでいる。

出展作家さんのコメント



上西隆夫

“オランダの旅をみんなと一緒に楽しく過ごせたことが一番良かったです。写真展では、「写真を撮ってもいいですか？」と聞かれ、「いいです」と答えたことがうれしかったです。前夜祭のパーティーでも、乾杯のワインを飲んで、おいしいものを食べて、写真もたくさん撮り、楽しい時間でした。おみやげもたくさん買いました。お父さんにワイン、お母さんには洗剤、今度アトリエ活動で使うペンや建物の載った本や自分の服とスポンも買いました。お店のひげの生えたおじさんに「いっぱいおみやげ買って」と言われ、断り切れませんでした。帰りの飛行機では少し疲れましたが、思いに残る旅でした。”

施設職員談



山田雪子

“食べ物がおいしかったです。出かける時は、妹にお化粧をしてもらい、とてもうれしかったです。日本では珍しい木靴を見たり、アンネフランクの隠れ家を見学しました。チュリップがきれいで、たくさん写真を撮りました。”

施設職員談



宮宏一郎

絵を描いてオランダで展示されて感動した！史上最強にすばらしかった！”



吉川秀昭

“楽しかった！お花がたくさんあった！チュリップ！おいしいお寿司やハンバーガーを食べた！目・目・鼻・口(本人の作品名)を見てきた！”



木伏大助

“家族みんなで出かける事が出来て、楽しい時間を過ごせました。”

ご家族談



宿間谷憲江

“大好きなお買い物をして、とても満喫できていました。”

施設職員談

Outsider Art from Japan

総勢80人ものツアーにちょっと紛れ込ませてもらって11時間の飛行機旅でオランダに飛び、Outsider Art from Japan展を観た。数年前からこの世界に魅せられて追っかけてきている。

16世紀の精神病院を改築したというドルハウスの建物、周囲の自然の雰囲気は作品の展示にぴったり。しかし、観る回を重ねるにつけ、だんだん疑念が強くなる。なぜこれらの作品群をOutsiderと位置付けなければならないのだろうか。芸術は芸術であって、そこには、Out(外)もIn(内)もない。境界を引いているとすれば、既存の芸術表現集団に対してOutと言っているにすぎないのではないだろうか。あるいは既存の芸術表現



アムステルダム



現集団がそれはOutだと言っているにすぎないのではないだろうか。ちょうど現代芸術として立場を固めたポップアートが20世紀初頭にはまさに既成画壇への反抗、異議申し立てをしたことから始まったことに例えられる。



ポップはOutだったが、今はもう押しも押されぬInにいる。今私が観ているこれらの作品群はやがてメビウスの帯のようにInになっていることだろう。だって、鯉万里絵さんの作品をバリのボンビドー美術館にある現代芸術の作品群と並べたって全然違和感なく観ることができると思うもの。。

宮本節子 (フリーソーシャルワーカー)



7日間ツアー



日本のアール・ブリュットのこれから



日本のアール・ブリュットが、ヨーロッパでこんなに高い評価と人気を得るきっかけとなったのは、2008年にローザンヌのアール・ブリュット・コレクションで開催された「Japan」展でした。その頃から後は堰を切ったように、パリ展、そしてヨーロッパ7カ国巡回展という具合に進んできました。私がこの世界に興味を持ち探索を始めたのは、1990年頃のことです。現在の状況がこんなに早くおとずれとは思っていませんでした。思えば夢のような事態です。このような状況を前にして私は、日本でも近年大人気になった江戸時代の絵師、伊藤若冲の作品などを熱心に収集したアメリカ人、エツコ&ジョー・ブライス夫妻の尽力が念頭に浮かぶのです。若冲の再評価は、日本人によってではなく、アメリカ人によってなされ、ある意味の逆輸入で今の若冲ブームはあるのです。また、ブライス夫妻が作品を寄贈したポストン美術館には、未だ未開封の浮世絵などもかなり在るのだそうです。その公開も楽しみですが、作品はこのようなままとって收藏される事で、後世の人達への公開と伝承がなされる事をつくづく思います。それを思うと、私もまだまだのんびりしてはいられない。方向性を見つめた若い方々の頑張り、に大きな期待を込めたいと思います。

はたよしこ (ポーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター)

ツアーに参加して

いつも見慣れている日常の風景だが、時が流れるのとともに少しずつ変わっていく。新しい時代の価値観は初めは誰の目にも見えなくて、ほんの少しずつ社会の空気を変えていく。アール・ブリュットをどれだけの人々が知っているだろうか。資本主義と自由貿易が築き上げた文明の不気味なきみせに世界の人々が狼狽している中、その震源地であるヨーロッパで日本のアール・ブリュットが注目されていることを、どれだけの人々が知っていることだろう。秩序や効率や均質さが繁栄の原理だとすれば、アール・ブリュットはそうした原理に窒息させられた人間を解放する思想だと思う。荘厳な寺院と美しい運河の街ハールレムで作家のみなさん、彼らを支える支援者のみなさんと過ごせたことをとても名誉に思います。



野沢和弘 (毎日新聞社論説委員)

ヨーロッパ巡回展『Art Brut from Japan』オランダ展のご報告

ヨーロッパ巡回展『Art Brut from Japan』は、2012年4月20日オランダのハールレム市内にあるドルハウス美術館の展示オープンで幕を切りました。日本からは、作家7人、出展作家の利用者仲間による応援団12人、保護者10人、社会福祉団体10団体21名、新聞記者1名、作家達の支援員など総勢80名が参加しました。前夜のアムステルダムの集會場で日本・オランダ合同主宰により歓迎夕食会が開かれ、全員が招かれて大歓迎を受けました。作家の宮宏一郎さんが剣玉の「世界一周」の妙技を披露し、会場に声援がこぼれました。

オープニングセレモニーは、美術館内のカフェテラスで行われ、先ず美術館館長が、アール・ブリュットが美術として独自の世界を占め、その表現力には、高い評価が与えられつつあることなどを紹介され、次いで日本側として私が、東日本大震災にあたってオランダから寄せられた数々の励ましにお礼を申し上げ、今回の展示が日蘭400年を超える友好の一層の深まりに役立つことを期待し、作家が次の創作に向けた力を得られるよう感想を寄せて戴きたいとお願いしました。オランダ側関係者からは、こんなに大勢の日本人の団体が訪れたことは、聞いたことがないと言われましたが、とりわけ作家の仲間が大勢参加し、応援してくれた事は、大変に大きな意味を持ちました。

井上庸一 (社会福祉法人愛成会 理事長)



魂の芸術 -アール・ブリュット 巡回展に寄せて-

アール・ブリュットのヨーロッパ巡回展のスタートを、心からお祝い申し上げます。また、我が中野区から新たに4人の作家がこの巡回展でデビューすることを、大変うれしく思っています。アール・ブリュット作品は、作者が自己の奥底から発するものを、吹き続けるように、描かれたものです。描かずにはいられないから描く。魂の命じるものをそのまま形にしたのが、アール・ブリュット(生の芸術)と言われる所以だと思います。人間は誰もが、複雑で多様な面を持つ、

謎に満ちた存在です。そんな作品の前に立ったとき、驚きと同時に深い慰めを感じるのには私だけではないだろうと思います。アール・ブリュットは、人間の多様性とその存在の奥深さを雄弁に語りかけてくれます。作者から見た世界、感情やこだわり、優しさや激しさなどが、見る人の心に直接働きかけてくる魂の芸術であり、心の深いところに共感と感動をあたえてくれるものだと思います。そして、そのことが、人種や文化、国境を超えて、人間同士の相互理解を深める大きな力になることと確信しています。



田中大輔 (中野区長)

ART BRUT from JAPAN

日本のアール・ブリュットの可能性について



今回集められた作品を見て、こう思う人もいるだろう。「これは欧米でアール・ブリュットと呼ばれている作品と少し違う。人間の心の奥の闇を映し出すかのような濃密でどろどろしたイメージはほとんど存在していない。となると、アール・ブリュットと呼ぶのは間違いなのではないか？」

この疑問は一面において正しい。確かにこれらの作品は、西洋の社会が「アール・ブリュット」と呼んできたものとは大きく違う。でも、たとえそうだとしたとしても「アール・ブリュット」と呼んでいけない理由はどこにもない。そこに見える色彩、モチーフ、形、どれもが、確かに、世界とのストレートな交歓に満ち溢れている。「ブリュット」、つまり「生々しい」と呼ぶる質は、なにも闇だけではないだろう。明るさもまた、人間をかたちづくる重要な質であるはずだ。

日本の文化の特性のひとつに「日本化(japanization)」があることはよく知られている。この島国に住む人たちは、外部から受け入れたものをリファインし、発展さ

せることを得意としてきた。そして、そのように日本化されたものが、時にはオリジナルを変容させることすらある事実を、フランス料理や自動車のケースを通して私たちは知っている。

日本のアール・ブリュットもまた、そうした「日本化」のひとつとなりえるのではないかと私は思っている。それは、美術館という制度に対していたずらに対抗することなく、むしろ協働しながら、デュビュッフェが創案した「アール・ブリュット」という概念が持ちえていた可能性を開花させつつある。そして、まだ柔らかいその芽を育てる責任は私たちにある。

保坂健二郎
(東京国立近代美術館主任研究員)

ナカノのヒトビト

このコーナーでは中野で出会った、ちょっとだけ幸せの「おすそわけ」をいただけそうな、人々の紹介をしていきます。



No.1 中野☆坊主バー -カオスモーズ・ヴァージョン-
マスター 釈 源光 Genko Shaku (58)
真宗大谷派・瑞興寺僧侶

お店データ
『中野☆坊主バー -カオスモーズ・ヴァージョン-』
〒164-0001 東京都中野区中野5丁目55-6
ワールド会館2F TEL/FAX: 03-3385-5530
URL: <http://nakano-vovsbar.com/>
19:00~翌2:30 (L.O.) 月~土
18:00~23:30 (L.O.) 日・祝(臨時休業あり)

兵庫県神戸市出身。哲学者のサルトルやフーコーの生き方、考え方に憧れ、若き日の4年間をフランスで過ごす。帰国後、広告代理店や大手セネコンズで過ごす。景気の上昇と共に順調に積み重ねてきた業績は、バブル崩壊によりあっけなく崩れてしまった。その後、離婚、阪神大震災、リストラ、交通事故を経験し、次第に生きる気力を失っていった。そんな最中、当時45歳だった源光氏は、大阪坊主バーのマスターであり、後に兄弟子となる同年代の僧侶に出会う。その『僧侶』と『バー』という、不思議な組み合わせが生んだ空間で、活きた仏教を感じたのだという。生に向かい、何に囚われるでもなく宗教者として使命を果たすマスターの生き方に感銘を受けたと同時に、自らがその場所に救われたのだそう。これを機に坊主としての道を歩む事を決意した。30代の頃から持ち続ける自らの仏教観を基に今日まで歩んできた。縁あって巡り合ったこの中野の地を「極楽浄土」と、源光氏は願う。通称「現代の駆け込み寺」とも呼ばれるこの『坊主☆バー』で、生きとし生ける全ての人々の幸せを願い、布教活動に努める日々を送っている。

- ヨーロッパ巡回展「Art Brut from Japan」展
主催：ヨーロッパ各展覧会開催美術館
会場：オランダ展「ドルハウス美術館」
- 特別協力
ボードレス・アートミュージアムNO+MA
社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団
〔「Japon」展、「アール・ブリュット ジャポネ」展日本事務局〕
- 後援
打越町会 / 中野区商店街連合会
中野サンモール商店街振興組合 / 中野ブロードウェイ商店街振興組合
薬師あいロード商店街振興組合 / 中野北ロー一番街商店会
- ヨーロッパ巡回展 日本事務局
社会福祉法人愛成会 法人企画事業部
〒164-0001 東京都中野区中野5-26-18
TEL: 03-3387-0082 FAX: 03-3387-0820
E-mail: europe-exhibition@aisei.or.jp URL: www.aisei.or.jp/
- ヨーロッパ巡回展「Art Brut from Japan」展ニュースレター 2012年5月発行
発行：社会福祉法人愛成会 デザイン：高石巧 写真：高石巧 / 日岡勇人